

# つながるキッチン

～大学生が考えた、食で人をつなぐソーシャルデザイン～



## 社会問題

大学生…ランチメイト症候群  
朝食の欠食  
老人……老人破産、独居老人

をこのキッチンで解決します！

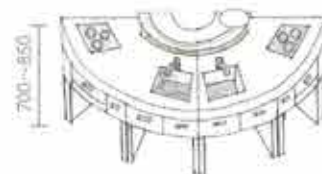
## concept

大学生が、自分達と老人達の社会問題を解決するため、食事から生まれるソーシャルデザインを考えました。  
初めは、テントを設置して、キッチンを創りました。“わ”が大きくなり、テントを大きくしました。さらに“わ”が大きくなり、大学が専用の建物を建てました。今、この“わ”は、コミュニティデザインへ展開中です。

### step1 はじまりは 小さな“わ”から

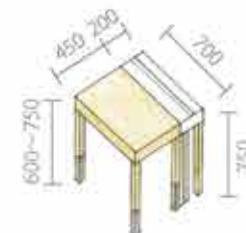
丸い形からはじまるダイニングキッチンは、テーブルを囲む人たちが、料理を大皿から取り分けるので、まるで家族が食べているような温かい雰囲気に包まれます。

#### ●キッチンの仕組み



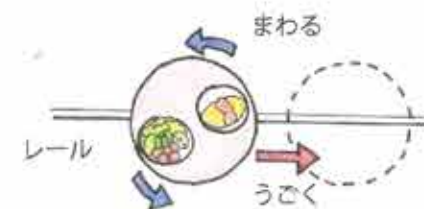
ツインキッチンは、高さを変えることができます。車いすでも調理ができます。

#### ●テーブルの仕組み



ひとり用のテーブルは、テーブルとレール天板で構成されテーブル部分は料理台としてもつかえ、高さを変えることができます。

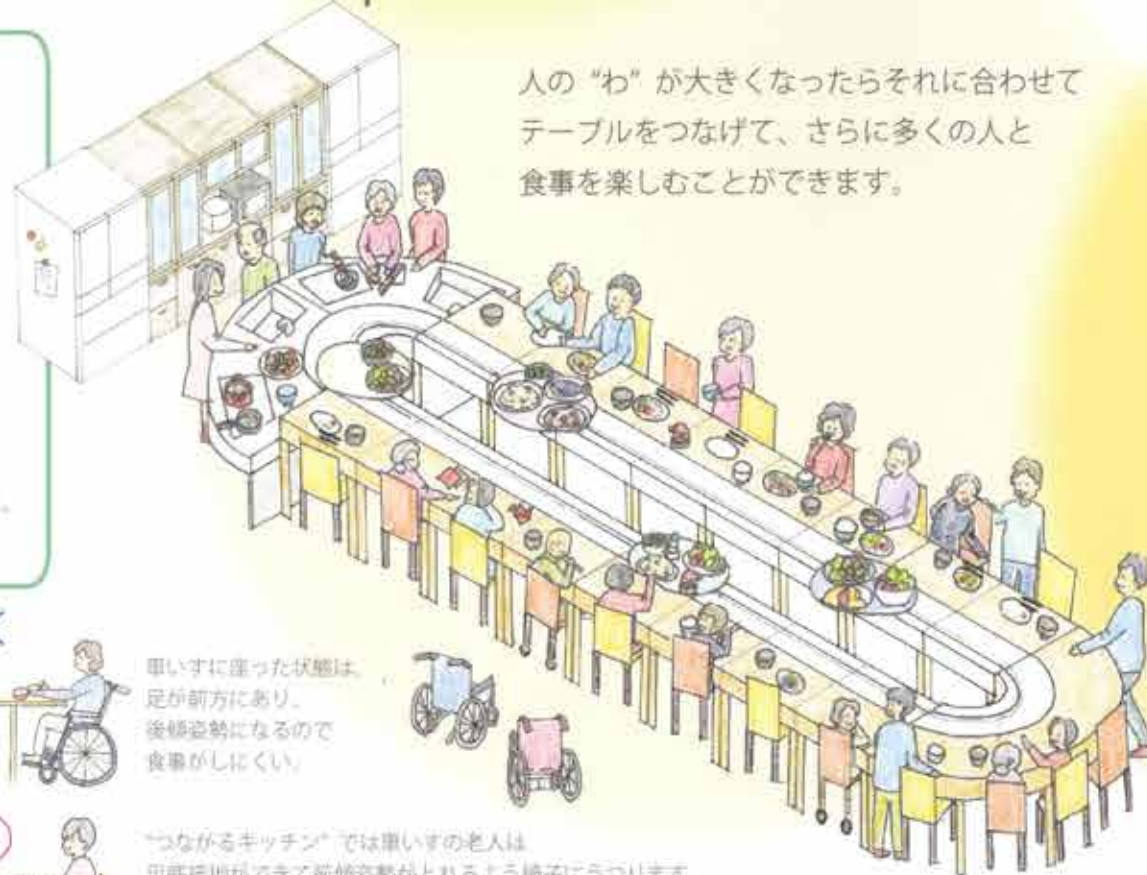
#### ●プレートの仕組み



回転と移動するので、どの席でも立ちあがることなく、料理をとったり、調理した料理をキッチンに運ぶことができます。プレートは手動で動かします。

### step2 どんどん大きい“わ”になって

人の“わ”が大きくなったらそれに合わせてテーブルをつなげて、さらに多くの人と食事を楽しむことができます。



### step3 大きい“わ”のその先へ

人の“わ”は、キッチンからそれぞれの生活の中へと溶け込み、大学生と老人のつながりが、コミュニティデザインへと展開します。

- ・いつでも頼み事をできる安心感がある。
- ・老人は話し相手ができる。
- ・学生は昔の知恵を教えてもらえる。

等々



つながれば、おたがいにうれしいことがある。

#### ●テント



このソーシャルデザインが成功するか分からないので大学の敷地内にテントを設置してみました。

参加者が増えてきたのでテントを大きくしました。



さらに参加者が増えて、このソーシャルデザインがうまくいくことが分かったので、建物を建てることになりました。これでみんなの居場所が完成です！！

#### ●平面図



車いすに座った状態は、足が前方にあり、後傾姿勢になるので食事がしにくい。



“つながるキッチン”では車いすの老人は足置きができて前傾姿勢がとれるよう椅子にうつります。これにより食事がしやすくなります。椅子は後脚にキャスターが付いているので乗り降りや介護が楽にできます。